

89 「野菜づくり」

新型コロナの問題が少しずつ表面化し始めた2月の終わりころ、夫婦で野菜づくりを始めることになった。植物好きの妻は、ずっと前から我が家の庭で花や野菜を育てて楽しんでた。しかし、狭いことと、周りが住宅で日当たりが充分でなく思うように育たない。どこか広くていい場所があればと思ってた。今回借りることになった畑は、家から車で5分ほどのところにあり、実家に隣接してとても便利な場所だ。勿論、そこでは広い敷地に何人もの人が畑をしていることは知っていた。

あるきっかけで、そこを管理している方の厚意により、空いているからやってみてはどうか？ということで野菜づくりをする気になった。楽しみと健康、それと畑ならコロナ感染も心配ない。

畑の広さは50坪ほどで、初心者には充分の広さだ。日当たりはよく、周りの人々はとても親切でいろいろ教えてくれる。

❖ 2月24日、**ジャガイモ**（男爵，メイクイン，キタアカリ）を植えた。ネットで調べたところいろいろ注意事項があるが、あまり細かいことに拘らず、基本的と思われることだけ注意することにした。

約15m長さの畝を3本つくり、3種類のジャガイモの種芋をそれぞれ1列ずつ植え付けた。

- ・時々化成肥料を与え、4月26日に“芽かき”、これは種芋から何本か出てきた芽の中で、元気なものを2、3本残して他を摘み取り、余分な葉を茂らせることなくイモの方に栄養が回るようにするためだ。5月2日に2回目の“芽かき”、それと同時に“土寄せ”、これは成長したジャガイモの土被りが浅いと、日光で毒素が発生して食べられなくなってしまうとのことで、大切なことらしい。
- ・同じ条件で植え育てているのに、成長にはずいぶん差があるのは何故だろう？種芋に差があるのだろうか？勿論ジャガイモの種類によっても成長に差がでる。
- ・5月末になると、大きな葉が茂り花が咲いた。中には葉に元気がなく枯れてきたものもある。それを土から引き抜くと、少し深いところから3～4個のジャガイモが出てきた。大きさ2、3cmほどでとても小さいが、充分食用になる。ジャガイモは3ヶ月ほどで食べられるようになるようだ！
- ・現在まで、一度に食べる分だけ少しずつ収穫し、まだ3分の2ほど残っている。遅く収穫するほど大きくなっているが、それにしてもスーパーで売られているものに比べるとずっと小さい。やはり、最初の土づくりが不十分だったことと、肥料のやり方が少なかったためだろう。



❖ 3月6日、畝を2列つくり、**ハウレンソウ**，**インゲン**，**ネギ**の種を蒔いた。

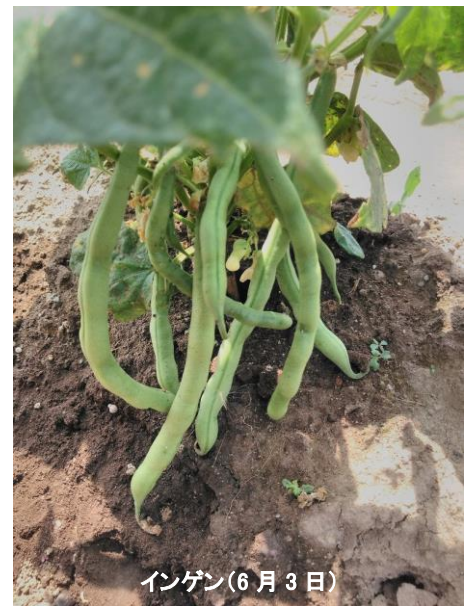
- ・3月24日、ハウレンソウが発芽し、しばらくしてインゲン、ネギもごく細いヒゲのような芽が出てきた。種蒔きから1ヶ月と少したって、ハウレンソウが大きくなり、5月に入って大きくなった葉から少しずつ収穫した。売られているハウレンソウに比べればずっと小さいが、みずみずしく柔らかそうだ。ゴマ油、だし醤油でサッと炒めると、買って来たものよりエグ味がなくとても美味しい。

こんな調子で大きくなった葉だけを時々収穫し、5、6回にわたって柔らかいハウレンソウを堪能し、5月30日全て引き抜いた。これは是非また来年作りたい。

- ・次に実を付けたのは「さつきみどり」というインゲン。高さは20cmほどしかないのに、びっしり実がついているのにはビックリ！こんなに小さいのに、よく多くの実をつけてくれたという感じ。やはり実は小さいが、食べるのには充分だ。

これも大きくなったものから収穫し、何回も食べる事ができた。インゲンは6月中旬まで収穫した。

- ・ネギは育ちが遅いようで、まだまだ食べるにはほど遠い。あまりにも育ち方が遅く大きくならないので一時諦めかけたが“だんだん大きくなるから大丈夫”と言われたとおり、最近少しだが希望が出てきた。



インゲン(6月3日)

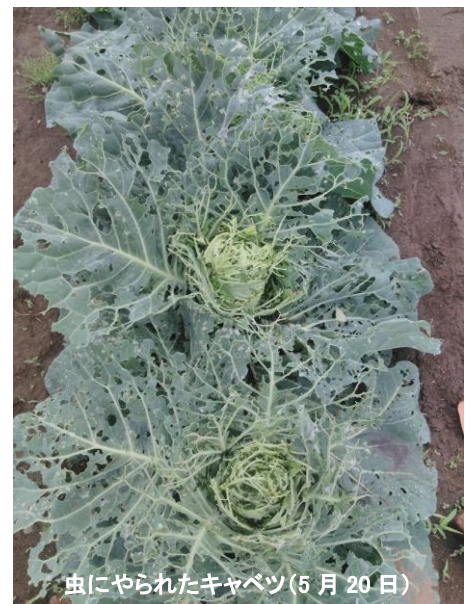
❖ 3月19日、キャベツの苗をいただき、5～6mの畝に10本ほど植えた。キャベツを育てるなど、全く考えてもいなかったが、いただいたので植えてみることにした。

- ・キャベツは葉が少しずつ成長し、開ききった状態で50～60cmほどの大きさになる。それから徐々に中心から巻き始めて来るという。暖かくなり、モンシロチョウが目立ち始めたころ、キャベツの葉に卵を産み幼虫が葉を食べるので、覆いをしないといけないと教えられ、5月1日急いでネットを被せた。

前からチョウがたくさん飛んでいることに気付いてはいたが、やはりそうだったのか！という感じだった。ネットを掛けた時点では、被害はほとんど気付かなかったもので、何とか間に合ったと思っていた。しかし甘かった。徐々に葉に穴があき始め、日を追うごとに穴は大きくなっていく。ネットはもっとずっと早めにしなければならなかったようだ。

見えないところに卵が産みつけられ、ネットで覆った時点ですでに幼虫が隠れていたのだと思う。農薬で幼虫を殺してからネットを被せれば良いという人もいたが、自分で育てる野菜に農薬は使いたくない。

- ・5月20日、キャベツの葉は中心から少しずつ巻いてきているが、すでに多くの葉が見るも無残なほど食べられ、とても食べられそうにない。それに青虫に食い荒らされたキャベツを食べる気はになれない。せっかく育てたキャベツで残念だが、中心部分の食べられそうなところだけ残し、ほとんどの部分は処分せざるを得ない。手間暇かけて育ててきた野菜を、さまざまな被害や事情で処分せざるを得ない農家の人々の気持ちが、少しだけ分かるような気がした。来年は同じ間違いをしないように早めにネットを被せよう。



虫にやられたキャベツ(5月20日)

- ・キャベツで思い出すのは、千葉県内を歩いていて、銚子付近の高台で見た広大なキャベツ畑だ。

見渡す限りキャベツで、あれほど広大な畑に当然ネットは掛けられないので農薬に頼るしかないと思う。スーパーに並ぶキャベツはどれもみなきれいなので、多分たくさん農薬が使われているのではないだろうか。

❖ 4月8日、**トウモロコシ**の種を蒔く。子供のころから、お婆さんが作ってくれたのを食べていた。

そのせいかトウモロコシが大好きで、何とか自分で育てたいと思い、家の庭に種を蒔いて育てようとしたが、日当たりが悪いせいか全くダメだった。

4月末になって芽が出て、育った苗12本を5月24日に移植した。他の畑のトウモロコシは大きく育っているのに、私の方は思ったより大きくなるのが遅く、6月後半になってもやっと50cmほどの高さだ。もうしばらくすると受粉の時期だとの事で、何とかうまく受粉できるようにしたい。

自分としてはトウモロコシが食べられるまでに育てばとても嬉しい。一般的には粒が大きく、甘さの強いスイートコーンが人気だが、私は小さい頃食べていたのが好きだ。粒が小さく、柔らかく甘みが少ないが、より原種に近いものが多い。

❖ 4月29日、ホームセンターで買ってきた**ナス**、**トマト**、**キュウリ**の苗、5月14日**ピーマン**の苗を植えた。これまでも、この季節になると時々苗を買い植えていた。しかし、今年は畑に充分余裕があるので、ナス5本、トマト(大玉)5本、ミニトマト(高性)3本、(低性)2本、キュウリ2本、ピーマン3本とたくさん買い込んだ。苗は茎が細く弱く、風ですぐに倒れてしまうので支え棒を添えて緩くしばっておく。

・苗植えは大きくなるのが早い。トマトは“わき芽”を取るようにと、その見分け方と取り方を教えてもらい2回ほど取った。余計な葉を残しておく、そちらに養分を取られ実が大きくなるのだそう。ジャガイモの“芽かき”と同じ理屈だ。そして、この摘み取ったわき芽を植えておくと、うまくすると、ここからまた新しいトマトが育つとのことで、やってみたら確かに何本か生命力の強いものが根付いていた。こうしたマメ知識を教えてもらうのも楽しい。こういうことは実際にやってみないとわからない。

・5月24日、トマトに黄色い小さな花が咲き、1ヶ月もしないうちに1mほどの高さに成長したので、転倒防止のため簡易的に棚を組み、周囲をロープで囲った。

5月30日、トマトに実が付き始めた。

ネットで調べたところ、トマトの実は雨に濡れると割れるという説と、濡れても大丈夫という説がありどうすべきか迷っていた。

周りの人は早々と頑丈で立派な囲いを作っている。できれば覆いをかけた方がいいだろうと、材料を買い薄いビニールシートで覆おうとしてみたが、ビニールシートは結構重く、骨組みが弱かったためうまくできない。

実際にやってみると囲いを作るだけでも結構難しいものだ。あまりブザマなものは恥ず



かしいので、結局“雨がかかっても大丈夫”ということにして、覆いはしないことにした。

- 6月23日、高さはゆうに1mを超え、まだ青いがたくさん大きな実を付けている。ざっと50個ほどで、まだまだ実をつけるだろう。背の高い方のミニトマトも実が鈴なりだ。低い方のミニトマトは本当に背が低く、高さ30cmもないのに、これまたピッシリと実を付け、2、3個もう赤くなっている。実が赤くなると“カラスにやられる”と教えてもらい、6月25日急いでカラス除けのネットをした。よく注意してみると他の畑のトマトだが、もうカラスに突かれているのがある。キュウリも。せっかく育てても収穫直前になってカラスに獲られてしまうのは悔しいので、これだけは手抜きできない。
- ナスもどんどん育ち、実が付き始めたと思ったら、アツという間に食べられるほど大きくなった。苗を植えて約1か月半でもう収穫できるようになったのは驚きだった。それもスーパーで売られているのに負けにくいぐらいの大きさ。一度に食べられる分だけ3、4ずつ個収穫できるのがいい。それほど太く、背丈があるわけでもない茎に、大きな葉が付き自分でやっと支えられるほどの大きな実が何個も着くのは凄い！野菜の多くは、品種改良によって強く、早く大きな実が付くように改良されていると思うが、それにしても実の大きさや数は、体の大きさに対してアンバランスなほどだ。ナスはまだまだこれからも収穫できる。
- キュウリは大人の身長ほどに大きくなり、棚に蔓を巻き付け大きな花を咲かせている。まだ実は付いていないがもうそろそろだろう。



里芋(6月25日)

❖ 5月2日、里芋の種芋をいただいたので植え付けた。

数がとても多く畝3列分になった。約1ヶ月経ってもまだ数えるほどしか芽が出ていないので少し心配。

多分、埋めるのが深すぎたのではないかと思い、表面の土を少し除くと芽が現れた。他の畑では、既に葉が大きくなっているのを見ると、かなり失敗したような気がする。

6月半ばになり多くの芽が出て一安心。里芋の収穫は10、11月頃なのでまだまだこれから育つのを期待しよう。里芋の茎はとても太く、

支えをしなくとも倒れることがないのは頼もしい。雨の降った翌日など、サトイモの葉の上で水が球になっているのを見るのも何か楽しい。

❖ 5月14日、エダマメとスナップエンドウの種蒔きをした。

エダマメはビールのつまみに最高、好物の野菜を育てるのには力が入る。エダマメの種は5ミリほどの大きさの大豆、スナップエンドウの種は、エメラルド色(染色?)のごつごつした比較的大きい粒。種の色にもいろいろあり興味深い。

- エダマメは5月20日、スナップエンドウは5月22日に発芽しどんどん育っていく。エダマメは茎がヒョロヒョロで弱々し



エダマメ(6月25日)

く、少しの風でも倒れそうなので、6月15日、全部ではないが数本ずつ囲いをして風で倒れないように保護した。背丈は40cmほどになり、6月末には沢山の小さな白い花が咲き、いずれ実を付ける日が来るのがとても楽しみだ。

- ・スナップエンドウは、種蒔きの時期が遅かったのであまり自信がない。まだ20cmくらいにしか育っていないので少し心配。昨年知り合いからいただいた、採りたてのスナップエンドウの甘く柔らかい味が忘れられず、何とか自分でも作ってみたいと思っているができるだろうか？

❖ 5月24日、ピーナッツの苗をいただき植え付けた。

ピーナッツの葉はクローバーに似ていてとても弱々しい。また、6月5日には畝1列分にピーナッツの種を蒔いた。ピーナッツの種は普段食べているピーナッツとほぼ同じで、私にはどこが違うのか見分けがつかない。種は土の中に浅く埋めているので、カラスが突いてしまうとのことで、覆いを被せレンガで重しをしておいた。



- ・6月23日、覆いを取ると芽が出て5cmほどになっていた。ピーナッツは土の表面浅いところに実を付けるということを教えてもらい、周りに薄く土を寄せておいた。

野菜を育てていると、植物の持つ生命力や成長の速さ、しなやかさなどを感じる。それと天気の変化に対して敏感になり、雨は有り難いが風は困るというようになる。

楽しみで野菜を作るのは気楽でいいが、売るための野菜を作るのは大変だと思う。味や栄養、見た目も拘らなくてはならないし、収穫直前に台風などの被害を受ければ、それまでの苦労が水の泡になってしまう。野菜作りは自然が相手なので、数年前からの異常気象はとても深刻な問題だ。

また、植物そのものの性質、特徴、そして肥料や農薬のことなど多くの知識が必要になる。そして、農産物は、いろいろな経済環境や市場原理の影響を受け、農業者の立場は決して強くない。

最近話題になった種苗法改正も多くの農業関係者の利害が関係する問題で、一般人も決して無関心ではられない。“食べ物をつくる”ことは大変でとても尊いことだ。ほんの“さわり”だけだが、自分で実際にやってみると、「お百姓さん」への感謝と尊敬の気持ちが自然と湧いてくる。

(2020.06.30)

その後...

❖ジャガイモ：梅雨に入り、そのまま放っておくと腐ってしまうと教えられ、7月3日にすべて掘り出して収穫した。すると、驚くほど大きく育っていてビックリ！スーパーで売られているものより、ずっと大きなものが何個もあった。どうも肥料不足ではなかったようだ。

1年生にしては良くできたと思う。ダンボール2箱に入れ、光が入らないようにして保管する。



ジャガイモ(7月3日収穫)

❖ネギ：少しずつ大きくなり、7月3日に間隔をあけて植え替えを行った。ネギの生育は遅く、他の野菜がどんどん収穫時期を迎えているのに、7月20日現在高さ30cmほどで、まだまだ先は長そうだ。これからも土寄せしたり追肥が必要になる

❖トウモロコシ：全く覆いをしなかったため、ハクビシン(多分)に荒らされほぼ全滅。せっかく育てたのに残念！来年からはきちんと囲いをしてカバーをしよう。



ネギ(7月20日)



大玉トマトとミニトマト(7月20日収穫)

❖トマト：畑に行く度に、真っ赤に色付いたトマトを収穫するのが楽しみだ。雨に濡れて少し見栄えが悪くなっているものもあるが、家で食べるには全く問題ない。

昔、お婆さんが畑から取ってきてくれたトマトはこのようなトマトだった。素人が畑でつくると、形は不揃いでスーパーに並んでいるのと全く比べ物にならないが、ハウス栽培のきれいなトマトに対して、ほぼ完熟状態で収穫するので栄養価はずっと高いように思う。時々ひび割れているがあるので、できることならやはり雨除け

をした方がいいのではないかと思います。ナス、キュウリも充分収穫した。ナスは紫色の花の先端、キュウリは黄色の花の先端にミニチュアのような可愛い実が付き、どんどん大きくなる。キュウリなどは、数日放っておくと、アツという間に大きくなり太りすぎてしまう。夏野菜は生育が早く育てて楽しい。

❖エダマメ：驚くほど多くの実を付けているが、まだ実が小さく収穫には少し早い。強風にも倒れることなく、育ってくれて良かった。もう一度くらい化成肥料を与え、まだまだ太ってもらいたい。

スナップエンドウは、

背が低く40cmほどにしかならなかったのに実を付けて、数は少ないが食べることができた。

知り合いの育てていたものは、人の背丈ほどだったように記憶するが、種類が違うのかも知れない。

(2020.07.20)



エダマメ(7月20日)



ニンジン(7月20日)